



初公演を行ったドラマーの堀越彰さん（右）と
ピアニストの三船優子さん

異色デュオが初公演

クラシック名曲をアレンジ

クラシックピアニストの三船優子さんとジャズドラマーの堀越彰さんによる異色デュオ「オプセツション」が30、31両日、中央ジャカルタのフェアモントホテル内にあるライブ・レストランで海外初公演を行った。クラシックの名曲を新スタイルの演奏でアレンジする2人に会場は釘付けになった。

同デュオは2014年に始動。クラシックと即興性を重視するジャズの融合に取り組み続けてきた。試行錯誤の末に生まれた曲を聞いた時、「取りつかれたような感覚になった」（堀越さん）ことから、「憑依（ひょうい）」を意味するデュオ名を決めた。

17年9月に行われたジャカルタ日本祭り（JJM）出演のオファーを受けたが、日程が合わずに断念した。今秋のJJMに出演す

る予定で、その準備のため今回の公演を行ったという。

クラシック界でピアニストとして活躍してきた三船さんは「ドラマと組むなんて何やってるの、と思っ

いる方も多いと思う」と話す。一方でインドネシアは「ジャンルにとらわれず、良いものは何でも受け入れてくれると感じた」と笑顔を見せた。

（大野航太郎、写真も）